



小児在宅ケア研究会会報 第14号

2019年8月28日

【第15回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

第15回小児在宅ケア研究会年次集会を、2019年6月8日(土)に、「多職種で支えるこどもたちの未来」をテーマにして開催いたしました。第1回から第14回まで長年にわたり、名古屋で開催しておりましたが、今年度から会場を変え、京都橘大学で開催することとなりました。今年度の参加者はスタッフを入れ、131名の方にご参加頂きました。



今回は、事例検討、活動報告、講演というプログラムで開催致しました。

事例報告は2事例の発表がありました。1事例目は、お子さんの成長をご家族とともに見守りながら、そのご家族の気持ちの揺れに付き添いながら看護をしていくことの大切さを発表されました。また2事例目は医療的ケアを必要とするお子さんやご家族と関わる中で、ご自身の看護がどのように変わっていったのかについて発表されました。お子さんやご家族によりそう大切さについて、学ぶ機会となりました。

活動報告は、入院しているお子さんのきょうだい支援活動に関する報告でした。とてもエネルギーに活動されている発表を聞くことができ、私たちも元気をいただきました。

講演は、「重症心身障害児への支援 - 作業療法士の立場から - 」というテーマで、京都橘大学健康科学部作業療法学科の原田瞬先生にご講演をいただきました。ご自身が実際に関わられた事例に関して、具体的にお話して頂きました。この研究会で、作業療法士の方からのお話を聞く機会は、今までなかったもので、とても興味深くお話を聞くことができました。お子さんやご家族に関わる方法は、それぞれの専門性によって異なりますが、目指すところは、お子さんやご家族が、その人らしく生活できることであり、多職種連携の必要性を改めて感じることができました。

参加して頂いた方のうち108名の方から年次集会に関するアンケートの回答を得ることができました。参加者は、これまでとは違い、関西の方が4割参加されており、今までの参加者の方とは、少し異なった傾向になっていました。また、所属に関しては施設で勤務をされている看護師の方が半数以上でしたが、訪問看護ステーションの看護師の方が昨年よりもさらに増えている傾向がみられました。全体の感想に対しては、全員の方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されました。自由記載では、発表を聞いて自分の看護を振りかえる事ができたことや、対象となる方の思いを聞くことの大切さを改めて感じたなど、様々な感想が記載されていました。今後の研究会活動への要望につきましても、様々な意見をいただいております。全てのご要望にお応えすることは大変難しいのですが、皆様から頂きました貴重なご意見を、今後の活動に反映させていきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。アンケートの詳細は、資料として同封させていただきますのでご覧ください。

今年度も多くの皆様のご協力のもと無事に「第15回小児在宅ケア研究会年次集会」を終了する事ができました。本当にありがとうございました。

【会員からのメッセージ：第15回小児在宅ケア研究会年次集会に参加して】

京都橘大学看護学部 岩崎由美子

私は、今回初めて小児在宅ケア研究会年次集会に参加しました。その中で感じたことは、子どもらしく、そして家族らしく過ごせるように多職種がそれぞれの視点で考え、お互いを尊重し合いながら子どもやご家族に対するよりよいケアを追求していくことの大切さです。私は、今年の3月まで臨床の看護師として小児病棟で勤務していました。医療的ケアを必要とする子どもやご家族を担当し、医療的ケアの指導や看護を実践することもありましたが、成長発達していく子どもに対して退院後の継続看護の難しさといったことも感じることもありましたが、慌ただしい毎日の中で忙しさを理由にして、子どもや家族の本当の思いに寄り添ったケアができていたのだろうか、自問自答していました。

今回、小児在宅ケア研究会年次集会のテーマは「多職種で支える子どもたちの未来」であり、事例検討から子どもと家族と共に歩んでいくためには話をする機会を作り、家族の思いを傾聴し家族のペースで希望をかなえていくことの重要性や、「語ること」「聴くこと」から子どもと家族の体験を共有することの大切さを学ぶことができました。「重症心身障害児への支援を一作業療法士の立場から」のご講演では、活動（遊び）、参加の広がりに向けて、母がこどもに経験させてあげたい思いは医療者にとっても共通の思いであり、看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの視点での考えを意見交換し、子どもが安全に楽しむことができるようにケアを追求されていました。実際には意見の食い違いでぶつかってしまうこともあるというお話でしたが、それもお互いが子どもや家族を思っていることの現れであり、その熱い気持ちに胸が揺さぶられ多くのことを学ばせて頂きました。

私は教員として、看護学生に臨地実習において多職種で支えることの意味や子どもたちの未来を考えて自分がどうすべきかということを考えさせ、子どもらしさや家族らしさをどのように捉えて看護へとつなげていくのかを伝えていくことで、子どもや家族の力になっていきたいと思えます。

そして今回この小児在宅ケア研究会年次集会で活動報告をお聞きすることができ、様々な立場から参加されていたことでいろいろな視点での意見交換ができ、とても貴重な時間となりました。今後もこの年次集会に参加して、みなさまと共に学び、感じ、看護を語り合いたいと思えます。

【第15回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第15回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の6月8日に開催されました。議事の中では、現在の会員数（150名）報告、2018年度の活動報告が行われました。その後、2018年度の決算・会計監査（案）、2019年度の活動計画（案）、2019年度の予算（案）、運営委員の改選、修了生対象の調査に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料をご覧ください。

【あとがき】

令和という新しい時代に変った年に、小児在宅ケア研究会の活動拠点も、名古屋から京都へ移動し、新たな出発となりました。社会が大きく変化していく中で、この新しい時代に、私たち小児在宅ケア研究会も、お子さんとご家族のために、頑張って活動していきたいと思えます。

会報では、会員の皆様に活用して頂ける情報も発信できたらと思っております。会報内容に関してご希望等がありましたら遠慮なく研究会事務局までご連絡下さい。会員の皆様のご意見を取り入れ、少しでも皆様のお役に立つことができるような活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしくお願いたします。

*会員の方で連絡先等に変更がある場合は、お早めに研究会事務局までお知らせください。ホームページからも手続きをすることができます。（文責：堀妙子）

